

# ほんごう



学校HP

札幌市立本郷小学校  
学校だより  
令和6年10月31日  
No. 8

帰宅時刻(11~3月)→16:30

## 忘れられない一冊に

司書教諭 影山 理奈

「あたらしい はっけんや たのしい であいが ふえれば ふえるだけ、  
こまった ことや、こわい ことにも、であうようになりまして。  
おじいちゃんは、ぼくの てを にぎり、おまじないのようにつぶやくのでした。  
『だいじょうぶ だいじょうぶ。』」



(いとうひろし 作・絵 「だいじょうぶ だいじょうぶ」より)

これは、私が一番大切にしている本の中の言葉です。この物語の中の「ぼく」は成長していく中で、自分の世界が広がっていくことにうれしさを感じていながらも、不安もたくさん感じていきます。そんな不安に「おじいちゃん」は、『だいじょうぶ だいじょうぶ。』と「ぼく」に寄り添って過ごしてくれます。そんな風に過ごしていくうちに「ぼく」は、不安や心配を「ぼく」自身で前向きに解消できるようになり、心も体も成長していきます。この本を読んだとき、「だいじょうぶ だいじょうぶ。」という言葉がなんて素敵で魔法みたいな言葉だろうと感じたことをはっきりと覚えています。私自身、不安になったり、自信がもてなかったりするときにいつもこの本を開いて力をもらっています。心を満たし、次も頑張ろうという気持ちになれるような本と出会えたことがとても幸せです。

本郷小学校には、開放図書館「いちい文庫」があり、開放司書さんをはじめ、たくさんのボランティアの方々の支援によって、子どもたちは毎日のように図書館で本を読んだり借りたりすることができます。5・6年生の図書委員会の子どもたちも、中休み・昼休みに貸し出し活動を行っています。朝読書の時間にも各学年に図書館利用を割り当て、図書館活用を進めています。

また、先生方が担任ではないクラスに行き行って読み聞かせをする「全校一斉読み聞かせ」や、図書館司書さんに協力していただき、読書に関わる活動「図書館タイム」も行っています。今年度は図書館での本の探し方のお話や、手作りの大型絵本を使った読み聞かせなど、学年に合わせて工夫を凝らした取組があり、子どもたちも興味をもって図書館タイムに参加していました。

このように、本校では、子どもたちが本に親しみ、読書を楽しめる環境づくりに取り組んでいます。多くの本を読むことで、言葉に触れ、絵に触れ、知らなかった世界に出会う経験をたくさんしてもらいたいと思います。時間の隙間を見つけて図書館に足を運び、本郷小学校の子どもたちにもぜひ、心揺さぶられるような、忘れられない一冊に出会ってほしいと思います。